

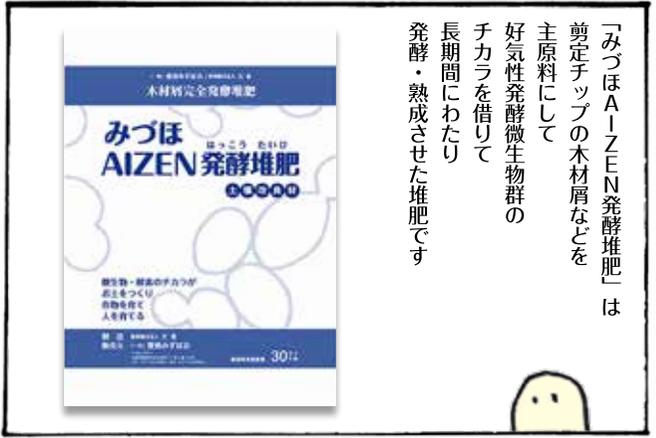
みづほ AIZEN 発酵堆肥 の特長

木材屑完全発酵堆肥

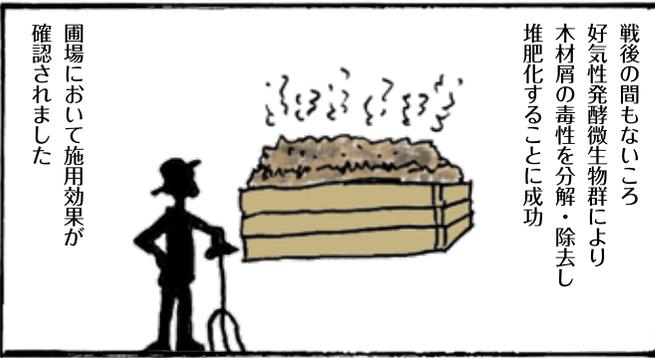
はっこうたいひ



木材屑はむかし
堆肥にも肥料にもならないと
言われていました



「みづほ AIZEN 発酵堆肥」は
剪定チップの木材屑などを
主原料にして
好気性発酵微生物群の
チカラを借りて
長期間にわたり
発酵・熟成させた堆肥です



圃場において施用効果が
確認されました

戦後の間もないころ
好気性発酵微生物群により
木材屑の毒性を分解・除去し
堆肥化することに成功



この技術は現在
日本国内はもとより
海外にも広く普及しています



しかし
宗教法人大本の教祖
出口王仁三郎の
「酵素は
天国の肥料である」
との言葉がもとで

肥沃な土の中には
ミミズや多足類などの
土壌動物や
肉眼では確認できない
土壌微生物が多数
生息しています

土壌動物は
動物の排泄物や死骸
落葉などの有機物を
エサとして分解し

さらに土壌微生物によって
無機物へとかえる
働きをしてくれています

**1gの土中にある
培地上で培養できる微生物数**

細菌	= 1000万~1億
放線菌	= 100万~1000万
糸状菌	= 10万~100万
藍藻菌	= 100~1000
原生動物	= 10~100

1㎡の土中にある土壌動物の数

有核アメーバ	= 1億~5億
センチュウ類	= 180万~12億
クワムシ類	= 500~1万6000
ワムシ	= 2500~7100
貝類 (カタツムリの仲間)	= 100~8500
小さなミミズ	= 200~2万
大型ミミズ	= 30~2000
多足類 (ムカデなど)	= 900~1700
ダニ類	= 2000~12万
ワラジムシ	= 100~400
小グモ類	= 180~800
トビムシ	= 1000~4万
甲虫類	= 500~1000
アリ類	= 200~500
ハエ類の幼虫	= 6000

菌類
糸状菌
酵母菌
担子菌

細菌
(バクテリア)
球菌
放線菌
桿菌

藻類
珪藻
緑藻
藍藻

原生動物
繊毛虫
アメーバ
鞭毛虫

この腐植は
土の粒子と結合して
団粒構造をつくり
肥沃な土壌をつくります

土の中の有機物は、土壌動物や土壌微生物によって分解され
やがて「腐植」と呼ばれる状態になります

このような団粒構造をもった土壌には
さまざまな大きさの空気の隙間ができ
水や養分を適度に保持(保水性・保肥性)しながら
通気性や排水性のよい土壌となります

腐植

一次団粒

高次団粒

団粒構造の土

微生物が出す
粘質物

シルト

粘土鉱物

土壌中に
有機物が豊富にあると
それをエサとする
土壌動物や土壌微生物が増え
さらに
土壌有機物の分解によって
形成された腐植が増えれば
団粒構造の土壌が
つくられるため
作物が豊かに
育つようになります

落葉層

腐葉土

腐植

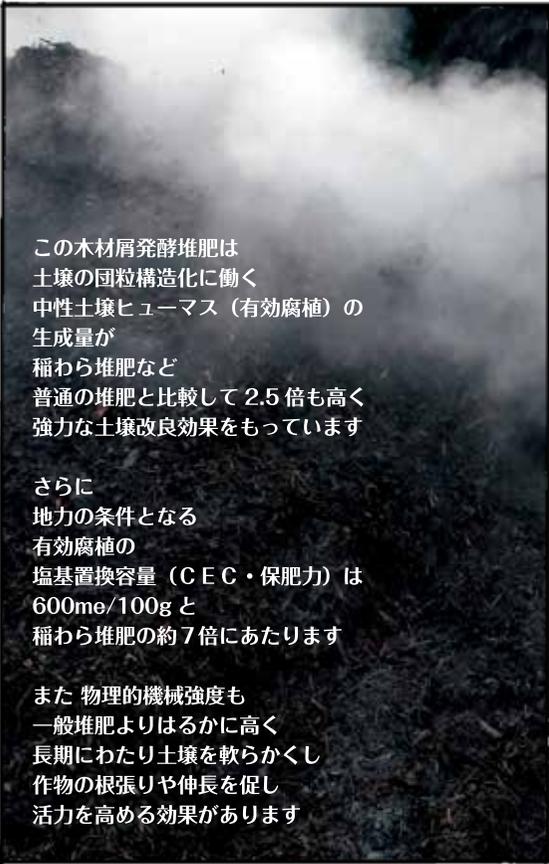
肥沃な良質土



しかし
農耕地の土壌は
育った作物が
収穫された後
植物の残渣などが
土壌に戻ることは
多くありません

そのため
有機物由来の
腐植の蓄積量は
年々徐々に減少してい
き
土壌微生物の数も
減っていつてしまいます

そうならないために
定期的には有機物を施し
土を耕して団粒化させ
土壌微生物にとって
生育しやすい環境を
保持していくことが
必要となります



愛善みずほ会では
土壌改良に最も有効な手段として
完全発酵堆肥を施すことを
推進しています

この木材屑発酵堆肥は
土壌の団粒構造化に働く
中性土壌ヒューマス（有効腐植）の
生成量が
稲わら堆肥など
普通の堆肥と比較して2.5倍も高く
強力な土壌改良効果をもっています

さらに
地力の条件となる
有効腐植の
塩基置換容量（CEC・保肥力）は
600me/100gと
稲わら堆肥の約7倍にあたります

また 物理的機械強度も
一般堆肥よりはるかに高く
長期にわたり土壌を軟らかくし
作物の根張りや伸長を促し
活力を高める効果があります



微生物・酵素のチカラを借りて
完全発酵させた堆肥の施用は
土壌を団粒構造化に
整えてくれるだけでなく
土壌微生物の数を
バランス良く増やし
土壌環境を安定させ
病原菌などの働きも
抑えてくれます



露地果菜類の場合	
10アール当たり	3～4ト
ハウス花菜類の場合	
10アール当たり	5～6ト
果樹園の場合	
10アール当たり	2～3ト
水稲の場合	
10アール当たり	0.5～1ト

施容量の目安

「みづほA-I-Z-E-N発酵堆肥」は
米・野菜・果樹・花卉全般に
お使いいただけます

1坪当たり
1袋 (30ℓ)

約3m

約1m

家庭菜園・ガーデニングの場合
1坪当たり 1袋 (30ℓ)

明星1号
窒素：リン酸：カリ
6：6：6

大地が作物を育てる力を
「地力」といいます
人に例えると
「体力」のようなものです
「みづほA-I-Z-E-N発酵堆肥」は
土に活力を与え
土の健康を維持する上で
大きな効果を与えます

堆肥は「お土のこはん」
肥料は「作物のこはん」
といえます

窒素を多く必要とする作物
リン酸を多く必要とする作物
また、葉物や根菜類など
育てる作物によって
堆肥とともに施す
肥料の量は変わってきます

愛善みずほ会会員向けの
季刊誌「みづほ日本」に掲載中の
「はじめての菜園」などを
参考にしてください

肥料には
有機質発酵肥料をお勧めします

真農2号
窒素：リン酸：カリ
2：17：0